

# 教育課程編成委員会

## 令和2年度第1回委員会 議事録

### 1. 日時および場所

日 時：令和2年10月1日(木) 18:00～20:00

場 所：オンライン会議 (Zoomによる)

### 2. 出席者

倉方俊輔、西濱浩次、鍵山昌信、田中義久、辻裕樹、井上久実、東泰紀、小松原学、中村裕輔、市岡武、壺山和憲、小島章、富山毅、

山下裕貴、堤下隆司、見邨佳朗、谷川博康、増田和浩、辰井菜緒、鍵谷啓太、釜友知與子、山本順也、野瀬孝男、明石祥子、上杉敬史

### 3. 配布資料

資料 1-1：令和2年度第1回委員会 議事次第

資料 1-2：出欠予定一覧表

資料 1-3：カリキュラム改定(案) 一式

資料 1-4：「卒業展 2021」表彰作品審査依頼状

### 4. 議事次第

#### (1) 第一部 全体会議 pm18:00-18:10

堤下委員、山下委員より開会の挨拶ののち、堤下委員より議事の説明があった。

- ・カリキュラム改定の説明
- ・分野別分科会のお知らせ
- ・新委員（辰井、山本）の紹介
- ・今年度前期の状況報告：学生の在籍状況、コロナ禍への学校対応、110周年記念事業報告、1級専科新設について

#### (2) 第二部 分野別分科会（建築分野） pm18:15-19:50

司会進行の増田委員より議事の説明があった。

- ・カリキュラム改定を行なう学科委員より主旨説明
- ・各委員より質疑

#### 1. 建築 CG デザイン学科科長、見邨委員より学科カリキュラム改定の説明

井上委員、辻委員、田中委員より下記の意見があった。

- ・オペレーター教育なのか、それとも設計手段としての BIM 教育なのか？（井上委員）
- ・施工管理と ICT との関わりについて（辻委員）
- ・総授業時間数の変更に関する意図について（辻委員）
- ・BIM 教育の達成度合いについて学科としての認識（田中委員）

#### 見邨委員より説明

- ・あくまで設計者の養成を意図しており、BIMを通じて設計力の強化も行っていく。
- ・BIM教育を行なうことで設計から現場への一気通貫を行なっていく。
- ・総時間数については2年間の時間数は変更せず、2年次に余裕を持たせることで就職活動、ポートフォリオ製作に充てる時間を確保していく。
- ・BIM操作については教育目標を実現している。設計力については今後の課題がある。

田中委員より、設計力については社会に出てから習得する部分も多くあるので、まず基盤としての操作技術については今回の改定で満足なものであるとの意見があった。

#### 2. 空間デザイン学科科長、鍵谷委員より学科カリキュラム改定の説明

辻委員、田中委員、井上委員、西濱委員より以下の意見があった。

- ・インテリアプロダクト演習を2科目に改定する意図について（辻委員）
- ・1年次の授業時間数を増加させる意図について（辻委員）
- ・手描きパースを軸にデザインを学ぶ方針は非常に良いと思う（井上委員）
- ・実際に「つくる」ことを通じて学ぶ授業があっても良いと思う（井上委員）
- ・「つたえる」スキルの開発について図面のプレゼンテーションに加え、対面コミュニケーションとしての「つたえる」について、教育の中でどのように行っているのか（西濱委員）
- ・照明デザインを授業内で行なうことはとても良いと思う。照度について感覚的につかめるよう教育して欲しい。（田中委員）

#### 鍵谷委員より説明

- ・科目名と内容を整合し、様々な演習で必要となる表現力の基礎を鍛えること、「インテリア」という枠組みを外すことでより広汎なデザインについての学びを得られるようにという意図がある。
- ・インテリアコーディネート科目を移動することで1年次の授業時間数は増加しているが、時間総数はほぼ変わっていない。
- ・学科では産官学連携を通じた実地の学びを重視しており、今後も「つくる」機会を積極的に採り入れて行きたい。
- ・学科では対面プレゼンテーションを重視しており、各科目の演習課題では常に3つの能力開発をサイクルとして行っている。
- ・照明デザインについては継続的に学科で課題として取り組んでおり、産学連携を活かしながら今後も教育を進めて行きたい。

#### 3. 住環境リノベーション学科副科長、山本委員より学科カリキュラム改定の説明

井上委員、倉方委員、田中委員、西濱委員、市岡委員、辻委員より以下の意見があった。

- ・ビジネスマナー教育の導入については非常に良いと思う。他学科でも採り入れてはどうか。（井上委員）
- ・施工を教育することは建設業界にとって非常に重要であり、リノベーションにおいても現場(施工)技術から建築を学んでいくことを学科の立脚点と捉えて行けばと思う。（倉方委員）
- ・工程管理についての実務的な知識や技術をどのように教育しているか。（田中委員）
- ・省エネや環境についての基礎教育について。（田中委員）

- ・現場の辛さからくる離職に対して、現場実務の実体験などを授業の中で伝えているか。(西濱委員)
- ・現場での人間力、信頼される人間になるためのコミュニケーション教育として、実体験や現場の達成感やものづくりの喜びを伝えて欲しい。(市岡委員)
- ・施工管理をする上で法の基礎知識について、構造の基礎知識についての教育があると良いと思う。(辻委員)

山本委員より説明

- ・他学科でも既にビジネスマナー教育は導入している。
- ・工程表の作成に関しては学内施設のリノベーション実習のなかで指導を行なっている。
- ・省エネや環境についての基礎学習は建築系学科共通の必修科目「建築環境工学」の中で講義しており、最新の事項についても授業を行なっている。
- ・富士研修センターでの職業訓練(足場、鉄筋、型枠、測量)や学内実習で現場実務の体験を行なっている。人間関係やコミュニケーションについては学科教員が経験談を基に伝えるようにしている。

#### 4. 建築学科科長、増田委員より今後の学科カリキュラム改定予定の説明

西濱委員、井上委員、中村委員、田中委員、辻委員、鍵山委員、市岡委員より以下の意見があった。

- ・今後を考えて BIM をカリキュラムに入れることを検討してみてもは。(西濱委員・市岡委員)
- ・住居学を新設することはとても良いと思う。(井上委員)
- ・設計グラフィック科目の位置付けについて検討を重ねて欲しい。(田中委員)
- ・施工特論は施工系希望者だけを対象とするのか。設計希望者にも施工系科目を履修できるように検討して欲しい。(辻委員)
- ・次々年度ということもあり未だ内容がつまっていないところもあるが、今後内容の精査を進めて欲しい。(鍵山委員)
- ・建築設計製図について、担当講師のキャラクターを活かした授業計画となっても良いと思う。(鍵山委員)
- ・設計者にとって必要な施工の知識を教えるような科目があっても良いと思う。(中村委員)
- ・様々な分野の知識や興味を育みながら、建築をつくることの意味を自ら考える教育して欲しい。(市岡委員)

## (2) 第二部 分野別分科会 (土木造園分野) pm18:15-19:50

### 1. 土木工学科・建設エンジニア学科科長、野瀬委員から 2022 年度カリキュラム改正 (案) の説明 小松原委員、壺山委員、小島委員、富山委員より以下の意見があった

- ・1年時に集中している計算系科目を2年時も実施する事により、2年間のスパンで継続して数学の基礎力を上げていこうとする改正案に賛成したい。構造力学や水理学、土質工学などを卒業時まで継続して学ぶことで、基礎的な知識の定着をお願いしたい。(小松原委員)
- ・企業の視点からは、若い人材には高度で専門的な知識よりも、まず基本をしっかりと理解することが大切と考える。建設ビジネス学や積算など、大学では教えてもらえない科目を必修として行うことは良いことだと感じた。(小島委員)

- ・専門学校は在籍期間が短いので、基本を身につけてくれれば十分であるとする。実務につながる基本的なことをたたき込んでほしい。ただ、詰め込み教育ではなく、継続性を重視している姿勢を評価したい。(富山委員)
- ・施工だけでなく設計など幅広く学ぶ機会があり、現場で活躍してくれる人材の育成を期待している。とくにインターンシップの活用についてもさらに充実してほしいと考える。現行のインターンシップでは1dayが多く、通いが中心でポイントしか学べないが、可能であれば現場の中で宿泊をして、朝の朝礼から参加するなど土木現場全体を感じてもらいたい。(壺山委員)
- ・VR技術を用いた体験シミュレーションの活用については、企業では、危険状態の疑似体験ができるなど安全管理上の研修などで活用している。リアルな体験ができ非常に有用であるが、授業での使用については著作権の問題があり、そのままの提供は難しい。企業として検討を重ね、授業のみならず子どもたちに土木を知ってもらう機会への活用などを目指したい。(小松原委員)

## 2. ガーデンデザイン学科科長、明石委員から2022年度カリキュラム改正(案)の説明

ガーデンデザイン学科に関わる委員の方々が欠席のため、今回は変更趣旨の説明のみにとどめ、意見の収集等は行われなかった。

### (3) 第三部 全体連絡 pm19:55-20:00

堤下委員より卒業展 2021 の審査員依頼および、第二回教育課程編成委員会開催予定の連絡があった。

堤下委員より閉会の挨拶があった。

### (4) 次回開催日時等の決定

日 時：令和3年2月20日(土)15:00から

場 所：129 教室

内 容：「卒業展 2021」審査

カリキュラム改定学科の進捗状況

令和2年度各学科カリキュラム実施報告

(文責；鍵谷、谷川)